

## 驛鈴がつなぐ松阪市と島根県浜田市

第4代松坂城主であった古田重治公が、今から約400年前の1619年に石見国浜田に転封され初代藩主となりました。また、浜田の第12代藩主の松平康定公が、松阪の国学者本居宣長に贈った「驛鈴」は、現在もお松阪市のシンボルとして市民に親しまれています。このように、松阪市と浜田市は歴史的なご縁を持つことから民間交流が始まり、平成28年4月2日には「驛鈴で結ぶ松阪市・浜田市 観光・文化交流協定」が締結され、両市の絆はより深いものとなりました。

## 西村神楽社中の紹介

所在地は浜田市西村町で、昭和51年に西村地区有志により結成された浜田八調子神楽の代表的社中です。速いテンポとリズム感あふれるダイナミックな舞が特徴で、団員は現在20名で子供神楽の指導もしています。

主に神社の祭礼等を中心に活動していますが、海外公演の経験も豊富で、アメリカ、韓国、中国、ロシア、サウジアラビア・メキシコ公演に参加、平成9年、12年に子供神楽と共にオーストラリア公演、平成14年にはUAE(アラブ首長国連邦)公演を行い大好評を得ました。また、平成19年には社中結成30年を記念してインド公演を行うなど精力的に活動しています。

## 演目紹介

### 【塵輪】(じんりん)

第14代天皇・帯中津日子(たらしなかつひこ)が、異国より日本に攻め来る数万騎の軍勢を迎え撃ちます。その中に塵輪という、身に翼があり、黒雲に乗って飛びまわり人々を害する悪鬼がいると聞き、天の鹿兒弓(あまのかごゆみ)、天の羽々矢(あまのはばや)を持って高麻呂を従え討伐に向かい、激戦の末に退治します。2神2鬼で舞台狭しと舞う迫力満点の演目です。石見神楽の鬼舞の代表的な演目でもあります。

### 【天神】(てんじん)

菅原道真公は生れながらにして才能があり光孝、宇多、醍醐3代の天皇に仕え右大臣にまで登用されますが、時の左大臣の藤原時平はこれをねたみ、天皇に讒訴(ざんそ)し、道真公は太宰府へ左遷。その後、時平は39歳の若さで死にました。これは、道真公のたたりであると伝えられました。石見神楽では、道真公が時平と戦うように創作してあります。この演目は、衣裳の早変わりや激しい刀での立ち合いがあって、石見神楽の中で最も激しい演目の一つです。

### 【恵比須】(えびす)

大国主命の第一の御子で美保神社の御祭神とされる八重事代主命(やえことしろぬしのみこと)である、恵比須様を題材とした演目です。恵比須様が現れ、鯛を釣り上げ寿福をあらわすという、幻想的かつ大変おめでたい神楽です。鯛釣りの前に撒き餌として投げる餌には福が宿るとされているので、捨うことができた人には幸福が訪れるかもしれません。子ども達にとっても人気の演目です。

### 【大蛇】(おろち)

須佐之男命(すさのおのみこと)が出雲の国・斐の川にさしかかると、娘を大蛇に食べられてしまうという老夫婦に出会います。そこで命は老夫婦に毒酒を作らせ、これを大蛇が飲んで酔った所を退治し、稲田姫と結ばれました。この時、大蛇の尾から出た剣は、天の村雲の剣(あめのむらくものつるぎ)《のちの草薙の剣(くさなぎのつるぎ)》として三種の神器の一つとし、熱田神宮に祀られています。大蛇が大きな胴をうごめかせ、火を噴き暴れまわる様は息をのむ大迫力で、石見神楽の代名詞といえる演目です。

※石見神楽について、詳しくは石見神楽公式サイトをご覧ください。

石見神楽 - 島根県浜田市 石見之国伝統芸能 - 石見神楽公式サイト

<https://iwamikagura.jp>

